

第30回

# 松山喜多流能

## 木賊 金子匡一

## 狸々乱 金子敬一郎

壺出

平成27年7月12日(日)午後1時始

松山市民会館小ホール能舞台

仕舞「草紙洗小町」友枝昭世  
(人間国宝)  
狂言「酔薑」古川道郎

主な出演者(重要無形文化財総合認定者)

シテ方 喜多流

金子匡一 金子敬一郎

友枝昭世(人間国宝) 長田驍 大島政允 香川靖嗣 塩津哲生 粟谷能夫 出雲康雅

中村邦生 狩野了一 友枝雄人 佐々木多門 大島輝久

塩津圭介 佐藤寛泰 金子龍晟

ワキ方 宝生流

森常好 坂苗融 森常太郎

大鼓方 葛野流

亀井広忠

笛方 森田流

赤井啓三 杉信太郎

狂言方 大蔵流

古川道郎 古川喜朗

小鼓方 幸流

曾和正博 曾和伊喜夫

太鼓方 金春流

前川光長

チケット申込やお問合せ先

〒790-0856 松山市南町2-2-12

TEL 089-931-6928(金子舞台)

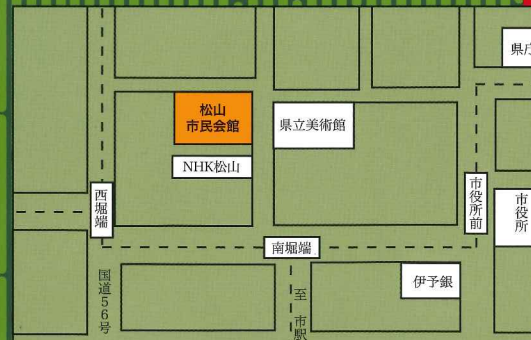
E-Mail kyou1@mac.com

鑑賞券10,000円

会場

### 松山市民会館 小ホール能舞台

愛媛県松山市堀之内 TEL 089-931-8181



主催 金子匡一後援会・愛媛喜多会

後援 愛媛県・愛媛県教育委員会  
松山市・松山市教育委員会  
愛媛新聞・南海放送株式会社  
テレビ愛媛・あいテレビ  
愛媛CATV・松山芸能文化協会  
(社)愛媛能楽協会

許可無き者の演能中の写真撮影、録音、録画は固くお断り致します。



番組

…解説…

シテツレ里人 金子龍晟  
シテツレ里人 大島輝久  
シテツレ里人 佐々木多門  
子方・松若 大島伊織  
シテ・松若の父 金子匡一

木賊

ワキ僧 森 常好  
ワキ連・從僧 森 常太郎

大鼓 亀井広忠 笛 赤井啓三  
小鼓 曾和正博

後見 大島政允  
長田 驍

地謡 佐藤寛泰 中村邦生  
友枝雄人 香川靖嗣  
狩野了一 友枝昭世  
塩津圭介 粟谷能夫

…休憩二十分…

狂言 酔

薑

シテ・鹿売り 古川道郎

アド・薑売り 古川喜朗

仕舞 草紙洗小町 友枝昭世

シテ・狸々 金子敬一郎

能 狸々乱

ワキ高風 坂苗 融

大鼓 亀井広忠 太鼓 前川光長  
小鼓 曾和伊喜夫 笛 杉 信太郎

後見 金子匡一  
友枝雄人

地謡 金子龍晟 佐々木多門  
塩津圭介 出雲康雅  
大島輝久 塩津哲生  
佐藤寛泰 狩野了一

終了予定 午後四時三〇分頃

木賊(とくさ)

人に誘われて故郷を出た松若が父に今一目会いたいと思ひ、都の僧たちとともに信濃の国・園原山を訪れます。そこで僧たちは木賊を刈る老人たちに出会います。僧は老人に、所の古歌「園原や伏屋にお生る帚木の、ありとは見えて遭わぬ君かな」をひいて、伏屋の里・帚木を案内してもらい一夜の宿を借ります。この老人、我が子が行方不明になったため、やや正気を失った体となっています。夜が更けひっそりとした酒宴が催され、老人は我が子の形見の衣装と烏帽子を身につけ狂乱の舞を舞います。やがて親子は再会の喜びを得て、ともに仏道へと赴きます。あらゆる能の中でも最も渋く、皮肉な色付けがされた一曲です。難曲でもあり上演回数は低くなっています。後半では白髪を垂らし子供用の烏帽子・衣装を身に纏い老人が「白髪の稚児」の姿となつて老いの狂気を妖しく表します。

酔薑(すはじかみ)

都へ商売に行く途中、薑売りと酔売りが出会う。薑売りは自分に礼を尽くさなければ商売させないと言ひ、薑の由緒正しさを語る。酔売りも負けじと由緒を語るので決着がつかない。そこまでの道中、秀句(洒落)を言い合つて勝負をつけることにするが、なかなか勝負がつかず、ついには…。中世の行商人を主人公にした作品。お互いの秀句を楽しむ雰囲気とテンポのよいかけあい、見どころ、聞きどころです。薑とは生姜のことですが昔は山椒のことを指しました

狸々乱(しろうじょうみだれつぼだし)

中国、揚子の里に、高風という大変親孝行の男が住んでいました。ある晩のこと、高風は、揚子の市でお酒を売れば、富み栄えることができるという夢を見ます。夢のお告げに従つて、お酒の商売をしたところ、高風はだんだんとお金持ちになつていきました。高風が店を出す市では、不思議なことがありました。いつも高風から酒を買い求めて飲む者がいたので、高風が、いくら酒を飲んでも顔色が変わることがありません。高風が不思議に思ひ、名を尋ねると海中に棲む狸々だと名乗りました。その日、高風は、酒を持って潯陽の江のほとりへ行き、狸々が現われるのを待っていました。そこへ赤い顔の狸々が現われます。狸々は友の高風に逢えた喜びを語り、酒を飲み、舞を舞います。そして心の素直な高風を称え、酌めども尽きない酒の泉が湧く壺を贈り、高風の家は長く栄えたといひます。まことにめでたいことでした。能は、常は「すり足」で舞いますが、「乱」ではつま先立ちや抜き足をしたり、足を蹴上げたり、非常に特殊な足遣いを見せます。そのような足遣いは、狸々が波間に浮き沈み、遊び戯れる様子を表しています。また「乱」の囃子には独特のリズムと緩急があり、狸々が酒に酔つて楽しんでに舞つ雰囲気をよく伝えます。